

KLAUS TOEPFER

Environmental politics expert

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Topics

- Energy
- Environment
- Strategy

Klaus Töpferは、ドイツ政府の大臣として、環境保護、都市計画、建設などのポートフォリオを手がけるとともに、国連環境計画(UNEP)の事務局長として国際的な分野で大きな尊敬を集めています。

マインツ大学、フランクフルト大学、ミュンスター校で経済学を学んだ後、ザールランド州政府で計画部長を務めました。アフリカ、中東、南アメリカで開発プロジェクトを進めながら、彼はいくつかの大学で講義をしました。

CDU党の一員で、彼はザールランドで党の議長を務め、1990年から1998年までドイツ政府の一員でした。

1970年代でさえ、クラウスはラインランドプファルツの環境と健康のための大臣として、環境保護に専念しました。1985年に彼は環境 原子炉安全大臣としてヘルムートコールの政府に加わりました。

ボンからベルリンへの政府の移動が深刻な問題に遭遇したとき、危機に対処する彼のスキルが求められ、そして1994年に彼は建設大臣になり、政府の移動に対して特別な責任を担いました。

同時に彼は国連開発委員会の委員でもあった。1998年から2006年まで、彼はケニアに本拠を置く国連環境計画の事務局長および国連ナイロビ事務所のゼネラルディレクターを務めました。国連を退職した後、トファーは中国の上海にある同済大学で環境と持続可能な開発の教授として働き始めました。

2001年から2010年までTöpferはドイツの持続可能な開発のための評議会(Rat für Nachhaltige Entwicklung)のメンバーでした。2009年に彼はドイツのサステナビリティ学研究所(IASS)の創設理事になりました。2010年、Töpferは2010年の万博のためのトピック「未来の都市」に関する上海市の顧問都市を務めました。

2011年、福島原発事故は世界を襲いました。その結果、ドイツ政府はエネルギー供給保証委員会(Ethikkommission für sichere Energieversorgung)を設置し、議長をKlaus Töpferに任命しました。